

資料

シンシナティ時代における
ラフカディオ・ハーンの新聞記事概要
(富山大学ヘルン文庫所蔵)

水野真理子

1. はじめに

1924(大正13)年、旧制富山高等学校(現富山大学の前身)の開学を記念して、素封家の馬場はる氏から寄贈されたラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn: 1850-1904)の旧蔵書は、「ヘルン文庫」として富山大学の貴重な財産となっている。昨年は新たに「富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会」が結成され、筆者もその一員として膨大なハーン研究の一角を探索しはじめたところである。

ハーン没後から数えれば110年以上の歴史を持つハーン研究は、これまであらゆる視点、角度からなされ、その蓄積は国内外で非常に厚い。しかしながら、まだ整理されず手つかずのまま眠っている資料も多々ある。現に富山大学「ヘルン文庫」には、ハーンがシンシナティに滞在していた時期に寄稿した新聞記事の一部が所蔵されているが、まだこれに関しては、しっかりとした整理や研究がなされていない。そこで本稿では、その新聞資料について、資料の詳細、寄贈の経緯、資料の位置づけ、および記事内容の整理を行い、本資料が活用されるための、またハーンのシンシナティ時代をさらに解明するための一助としたい。本稿で扱う資料は『シンシナティ・インクワイアラー』(*Cincinnati Enquirer*)『シンシナティ・コマーシャル』(*Cincinnati Commercial*)の二紙に寄稿されたハーンの記事である。以下、新聞の名称は『インクワイアラー』『コマーシャル』と略して表記する。

2. 資料の詳細とヘルン文庫寄贈への経緯

本資料の赤いボックスには主に以下のものがおさめられている(写真1)。①『インクワイアラー』『コマーシャル』(プラスチック袋、マジックでのメモ書き付き)(写真2)。②寄贈者の檜山茂氏が記事の鑑定を依頼したシンシナティ大学ジョン・C・ヒューズ(Jon C. Hughes)教授から、檜山氏に宛てた書簡。2000(平成12)年3月12日付け。記事の鑑定結果を説明している。③檜山氏から当時の八雲会事務局長 高成玲子国際大学教授宛てのファックスによる文書の一部。資料を寄贈したい旨の内容が記されている。2005(平成17)年4月7日付け。④檜山氏から富山八雲会に宛てたファックスの文書。『インクワイアラー』『コマーシャル』の記事リストが記されている。2005年4月8日付け。⑤檜山氏から富山県、富山八雲会宛ての資料寄贈の覚書。寄贈資料の内容記載、高成教授の署名による受領の旨の記載がある。2005年6月18日付け。⑥『インクワイアラー』『コマーシャル』のハーン執筆記事表(作成者は不明)。⑦ハーンの著作、新聞記者時代の一部の書誌情報(作成者は不明)。⑧資料の寄贈について報じた『北日本新聞』『富山新聞』などの記事の複写(2005年6月15日、19日付け)。



写真1

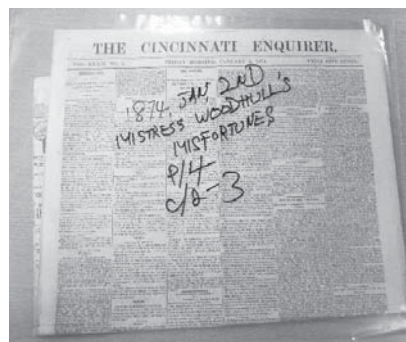


写真2

これらの資料（主に②、③、④、⑤）から判断すると、ヘルン文庫寄贈への経緯は以下のようなものである。寄贈当時、大阪市西区の貿易会社（MC インターナショナル,INC）社長の檜山茂氏は、ハーン著作の収集家でもあり、1874年から77年の『インクワイアラー』『コマーシャル』をアメリカの書店で購入した。これらの資料にハーンによる執筆記事があることを推測し、それらについて、シンシナティ大学の英語・ジャーナリズム学科ヒューズ教授に依頼した。2000（平成12）年3月初旬、檜山氏はシンシナティ市にある書店オハイオブックストア（The Ohio Bookstore）のジェームズ・ファロン（James Fallon）氏を通じて、教授に新聞のコピーを送付した。それらは、『インクワイアラー』（39部）『コマーシャル』（32部）であった。ヒューズ教授は、記事が扱うテーマ、文章や語彙の特徴、コロンのパルクチュエーションの使用法、引用の仕方、外国由来の単語の使用などの特徴から、ハーンの手による記事かどうかを分析した。P.D.パーキンス『ラフカディオ・ハーン作品書誌』（1934）も参照し、そこに記載の記事も発見した¹。扱った新聞の部数は71部、そのうち同日の紙面に二つの記事が掲載されていることから、『インクワイアラー』掲載記事45点、『コマーシャル』掲載記事32点、全部で77点の記事を教授は細かく鑑定した²。その結果のリストがヒューズ教授から、2000年3月12日にファックスで檜山氏に送られた（資料②の書簡）。そのリストには、『インクワイアラー』紙について、1）ハーン執筆が確実な記事（13点）（表記 Yes）、2）おそらくハーン執筆の記事（14点）（表記 P）、3）おそらくハーン執筆でない記事（7点）（表記 PN）、4）ハーン執筆でないことが確実な記事（11点）（表記 N）と分類されている（合計45点）。『コマーシャル』紙についても同様に、1）ハーン執筆が確実な記事（6点）（Yes）、2）おそらくハーン執筆の記事（12点）（P）、3）おそらくハーン執筆でない記事（6点）（PN）、4）ハーン執筆でないことが確実な記事（8点）（N）（合計32点）、と分類されている。表記のアルファベットの意味は、「Yes: Hearn Wrote It,

¹ P.D. and Ione Perkins, *Lafcadio Hearn: A Bibliography of His Writings* (Tokyo: Hokuseido Press, 1934).

² ヒューズ教授から檜山氏宛ての書簡（資料②）に鑑定した記事数が76点と記載してある箇所もあるが、同封の記事リストで示されている記事は77点なので、77点が正確な数だと考えられる。

P: Hearn Possibly Wrote It, PN: Hearn Probably Did Not Write It, N: Hearn Did Not Write It」と、ヒューズ教授は記している。あくまで彼の私見による鑑定結果であるため、議論の余地があろうことも教授は指摘している。

これらの資料リストでハーン執筆記事とされたものすべてが、富山大学に寄贈されたのかと推測しそうになるが、実際はそうではない。これらの資料のうち、YesとPに分類された記事が、『インクワイアラー』から5点、『コマーシャル』から8点で合計13点（新聞数は12部）選択され、さらに新たに8部（8点の記事）を加えた、合計20部（21点の記事）が、2005年6月18日に、檜山氏より富山県、富山八雲会に寄贈された（資料⑤の覚書）。新たに加わった8点も、ヒューズ教授の鑑定済みである。どのような理由から13点が選択され、8点を加えられたのか、その辺りの事情はまだ不明であるが、檜山氏、ヒューズ教授と親交のあるシンシナティ・日本研究センター所長田中欣二氏が、「ハーンの寄稿と鑑定されたシンシナティの新聞記事（追加）」（2006）で、その経緯を推測させるような情報をまとめている³。それはまた本資料に記載の内容と重なる部分が多分にある。田中氏によると、檜山氏は、購入した同二紙のうち、書誌に載っていない76報の記事について、ヒューズ教授に鑑定を依頼した。そして教授はYes, P, PN, Noの4つに分類した。後者の2群を除いてハーンの記事と断定、推定されたもの（前者Yes, Pのカテゴリー）は、松江市、熊本大学、富山ヘルン文庫、焼津市、池田記念美術館、そして小泉家に分散して寄贈されたという⁴。さらに全コピーをアメリカでも保管できるように配慮したという。その背景として、2005年8月末にニューオーリンズを襲ったハリケーン・カトリーナに言及し、カトリーナの被災によりトゥーレーン（Tulane）大学のハーン・コレクションのうち、地下書庫の新聞とマイクロ・フィルムが復元困難な状況になったことが説明されている。おそらくこうした自然災害の影響を考慮して、檜山氏は資料を分散して所蔵することとし、その流れにおいて富山大学寄贈分の資料が選択されたのではないかと推測される⁵。この点については今後、可能であれば檜山氏やヒューズ教授と連絡を取り、明らかにできればと考えている。

3. ハーンの新シナティ時代と本資料の位置づけ

3-1. シンシナティ時代の概略

ハーンは1869年から1877年、19歳から27歳までを、オハイオ州の新シナティで過ごしている⁶。イギリスのリヴァプールから移民船に乗り、まずニューヨークに辿りつく。さらに移民列車でシ

³田中欣二「ハーンの新シナティ時代と本資料の位置づけ」『へるん』第43巻、2006年、101-103。

⁴田中の記述をたよりに、現在、そのほかの機関における檜山氏からの寄贈新聞資料の所在を調査中である。現段階では、熊本大学附属図書館の学術調査研究推進室に『インクワイアラー』の3点の資料が所蔵されていることが判明した。詳細は以下の通りである。“Pauline Lucca,” May 21, 1874; “Farewell,” March 8, 1875; “Cutting Affray The Knife,” March 18, 1875。本資料について熊本大学附属図書館の利用支援担当者の方に調査ご協力いただいた。ここに感謝申し上げます。

⁵田中、「ハーンの新シナティ時代と本資料の位置づけ」、『へるん』、101-103。

⁶ハーンの新シナティ時代については、主に平川祐弘監修『小泉八雲事典』（恒文社、2000）；田中欣二「シンシナティ時代のラフカディオ・ハーン」平川祐弘・牧野陽子編『講座小泉八雲 I ハーンの人と周

ンシナティへ向かった。遠戚のヘンリー・モリヌーの妹が嫁いでいるトマス・カリナン宅に、アイルランドから送金されるはずの生活費を受け取るためであった。カリナン一家は 1866 年ごろにアイルランドから移民し、幼い子供三人を抱え、ハーンを歓迎できる状態にはなかった。そのため、週 5 ドルほどを何度か与えられたあと、自活するようにと、家を追い出されたようである。やむをえずハーンは、日雇いの仕事などをしながら生活する。数か月後、印刷屋のヘンリー・ワトキン氏と出会い、仕事を教えてもらいながら、寝場所も提供してもらう。1874 年、『インクワイアラー』の正式な社員となり、11 月には「皮革製作所殺人事件」(通称 “Tan-Yard Murder Story”) を扱った記事が大反響となり、事件記者として名前が知られるようになる⁷。1875 年、アフリカ系アメリカ人女性マティと結婚したことも原因し、『インクワイアラー』社を解雇され、『コマーシャル』社へ移る。1877 年 10 月、マティとの結婚生活が破綻し、『コマーシャル』社を辞め、シンシナティを離れる。そして 11 月、ルイジアナ州ニューオーリンズに到着する。

3-2. シンシナティ時代の新聞寄稿記事についての書誌

本資料がどのような位置づけをされるべきか判断するために、シンシナティ時代のハーンの新開資料に関する主要な書誌情報を整理しておこう。分かりやすさを考慮し、通し番号を付する。

まず最初の書誌として挙げられるのは、①ジョージ・M・グールド『ハーン伝』(1908)である⁸。この著作の第 3 章に、「皮革製作所殺人事件」を見事に詳述した「凶暴な火葬」(“Violent Cremation”) (1874 年 11 月 9 日)の一部が掲載されている。他にはシンシナティやニューオーリンズでの記事情報が説明されている。次は②アルバード・モデル編『アメリカ雑記』(1924)である。序論でシンシナティ時代の新聞記事を調査する過程が述べてあり、それによると、モデルは先のグールド『ハーン伝』における記述をヒントに、ワシントンの議会図書館 (Congressional Library) で原資料に当たったという。1 巻にシンシナティ時代の記事を掲載している⁹。次に、タイトルが示すとおり、ハーンのアメリカ時代に力点を置いたのが、③エドワード・ティンカー『ラフカディオ・ハーンのアメリカ時代』(1924)である¹⁰。記述内容の正確さにこだわり、またハーンと交友関係にあった人々にインタビ

辺』(新曜社、2009)、148-176 を参照。

⁷ この事件は、ドイツ系移民労働者ヘルマン・シリングが、生きたまま皮革製作所の炉で焼き殺されたという凄惨な事件である。ハーンはこの事件を 1874 年 11 月 9 日から 11 月 16 日まで、従来の報道記事の常識を破るような、太字で何行にもわたる見出し、イラスト入りなどの体裁で記事を執筆した。平川、『小泉八雲事典』、503; キャメロン・マクワーター、オウエン・フィンセン共編、高橋経訳『小泉八雲こと、ラフカディオ・ハーンの現行選集 「怪談」以前の怪談—シンシナティ・インクワイアラー紙：1872-1875 年』(同時代社、2004)、100-161、249-303。英語版は Lafcadio Hearn, *Whimsically Grotesque: Selected Writings of Lafcadio Hearn in the Cincinnati Enquirer, 1872-1875*, eds. Cameron McWhirter and Owen Findsen (Tokyo: Kyo Vision Books, 2009)。

⁸ George M. Gould, *Concerning Lafcadio Hearn* (Philadelphia: George W. Jacobs and Company Publisher, 1908)。

⁹ Lafcadio Hearn, *American Miscellany: Articles and Stories Now First Collected by Albert Modell*, vols.1 and 2 (New York: Dodd, Mead and Company, 1924)。

¹⁰ Edward Larocque Tinker, *Lafcadio Hearn's American Days* (New York: Dodd Mead, 1924)。

ューした情報も加えた。ここでも「凶暴な火葬」などが詳しく説明されている。再びアルバート・モデルによって出版されたのが④『西洋落穂集』（1925）である¹¹。これは『アメリカ雑記』に盛り込めなかった記事や、前作出版後に調査したハーンの伝記的事実の結果も報告しており、銭本健二によればティンカーの著作への貴重な補遺となっている¹²。これらの研究により、ハーンのシンシナティ時代の記事の多くが、発掘され刊行されることとなった。

次に、これらの先行研究を受け、かなり網羅的に整理された最初の書誌が⑤P.D. パーキンス編『ラフカディオ・ハーン作品書誌』（1934）である。『インクワイアラー』『コマーシャル』に掲載されたハーン記事が整理されている。1964年になるとアルバート・モデルは、⑥『諸発見』（1964）で自身のハーン研究の集大成を試みたのだが、その第3章には『アメリカ雑記』『西洋落穂集』における記述を改訂してハーンのシンシナティ時代を説明している¹³。パーキンスとモデルの研究により、さらに正確な記事情報が提供された。

次に国内所蔵の資料としてもおさえておきたいのが、⑦天理図書館発行の『小泉八雲一草稿と書簡4』（1974）とその解説、⑧矢野峰人、河合忠信、岸本博吉監修『小泉八雲一草稿と書翰6・解説』（1974）である¹⁴。⑧によると昭和27年、天理大学図書館はP・D・パーキンス氏蒐集『八雲文庫』を受譲した。そこには⑤のパーキンス編『ハーン作品書誌』の資料の大部分が含まれており、中身は1,000点におよび、単行本類、その諸版、寄稿誌、小冊子、抜き刷り、切抜き綴じ、『インクワイアラー』などを含む雑誌、新聞紙、原稿類、書翰、写真、絵、そのほか未既刊の諸記録、八雲研究文献、パーキンスが『ハーン作品書誌』編纂の際に交信した関係者との往復文書の集冊であった。『インクワイアラー』は1873年1月から8月分の原紙が収められた。そのなかから主に文学その他に関連した19の記事を翻刻したのが⑦である。6月8日付けの新聞は欠号のため、同紙上の“Epidemic in Embryo”は採録できていない。⑦の巻末にパーキンスによる『インクワイアラー』掲載記事の書誌情報が転載されている。

次に、ハーンの記事数を詳細にまとめたのが、⑨西崎一郎「新聞記者としての小泉八雲一文学者への出発」（1975）である¹⁵。ここには、『インクワイアラー』などの記事数内訳が記載されている。『インクワイアラー』については合計253点（内訳：1872年11月から73年までは78点、1874年は130

¹¹ Lafcadio Hearn, *Occidental Gleaning: Sketches and Essays Now First Collected by Albert Mordell*, vols.1 and 2 (London: William Heinemann, 1925).

¹² 平川、『小泉八雲事典』、636。

¹³ Albert Mordell, *Discoveries: Essays on Lafcadio Hearn* (Tokyo: Orient/West, Publishers, 1964).

¹⁴ 『天理図書館善本叢書 洋書之部 第IV次刊行 小泉八雲一草稿と書翰』（全5冊）（天理大学出版部、1974）、英語タイトルは、Lafcadio Hearn, *Articles on Literature and Other Writings from The Cincinnati Enquirer 1873*, ed. Tenri Library (Tenri University Press, 1974); 矢野峰人、河合忠信、岸本博吉監修『小泉八雲一草稿と書翰6一解説』（天理大学出版部、1974）。

¹⁵ 西崎一郎「新聞記者としての小泉八雲一文学者への出発」森亮編・解説『現代のエスプリ』91号、1975年2月1日、23-39。

点、1875年6月までは45点)、『コマーシャル』については合計164点(内訳:1875年9月から1876年までは80点、1877年から78年4月までは84点)である。のちに発行されるジョン・C・ヒューズ編『ピリオド・オブ・ザ・グルーサム』(1990)記載の記事数とは合わず、むしろそれよりも多い記事数が記載されている。西崎が何にもとづいて記事数を特定したか、それについての明確な文献の記載がないため、いささか実証性に欠けるが、ただ、西崎は『ラフカディオ・ハーンのアメリア時代の記事(全5巻)』(1939)を刊行しているため、その編纂過程で整理した記事数を記載している可能性がある¹⁶。

ヘルン文庫への本資料寄贈の過程で触れた、ジョン・C・ヒューズの研究は、後述するように、檜山氏との協力のもと、未刊行資料の発見・追加という新しい段階に至ったものである。ジョン・C・ヒューズ編、⑩『ピリオド・オブ・ザ・グルーサム』(1990)は、パーキンスの書誌以来、出版された網羅的な労作の書誌である¹⁷。ハーンのシンシナティ時代の記事の書誌情報が巻末に載っている。もとは『若き日のハーン』(1958)の執筆者でハーンの青少年期、アメリカ時代に焦点を当てたO.W.フロスト(O.W.Frost)が収集したもので、それにヒューズが追加をした¹⁸。『インクワイアラー』は合計249点(内訳:1872年は15点、1873年は64点、1874年は127点、1875年は43点)。ハーンが挿絵画家H・F・ファーニーとともに、「美術・文学・風刺専門挿絵入り週刊雑誌」と銘打ち刊行した『イジグランブス』(1874)は44点。『コマーシャル』に関しては、合計146点(内訳:1875年は24点、1876年は51点、1877年は65点、1878年は6点)である。これらの中から51点、ハーンの魅力的なそして議論を巻き起こした記事を選んで採録している。

研究者間の交流により単行本に未収録の記事情報を、田中欣二氏から入手し、それを紹介したのが、⑫銭本健二「ラフカディオ・ハーン単行本未収録の新聞寄稿記事(1)」(1999)、⑬銭本健二「ラフカディオ・ハーン単行本未収録の新聞寄稿記事(2)」(2000)である¹⁹。ハーンの新開記事関連書誌の簡潔な整理と、追加記事の見出し、および各1文ほどの内容紹介がなされている。ここに挙げられている64点の記事のうち、4点(“Mistress Woodhull’s Misfortunes,” “A Mild and Just Government,” “That ‘Nun,’” “The Century Crime”)はヘルン文庫におさめられているものである。銭本は、パーキンスの書誌に、①グールド『ハーン伝』に掲載の、信頼性が高いと考えられる翻訳作品のリストが抜けていることから、パーキンスの書誌の不十分さを指摘している。また、編者によって記事数の判断が違うのは致し方ないとしながらも、ただ、ティンカー、モーデル、パーキンスらとフロスト、ヒューズの間には、信憑性について隔たりがあると考えている。なぜなら、前者は関係者が生存していた

¹⁶ Lafcadio Hearn, *Lafcadio Hearn’s American Articles*, ed. Ichiro Nishizaki, vols.1-5 (Tokyo: Hokuseido Press, 1939).

¹⁷ Lafcadio Hearn, *Period of the Gruesome: Selected Cincinnati Journalism of Lafcadio Hearn*, ed. Jon C. Hughes (Lanham M.D.: University Press of America, 1990).

¹⁸ O.W. Frost, *Young Hearn* (Tokyo: Hokuseido, 1958).

¹⁹ 銭本健二「ラフカディオ・ハーン単行本未収録の新聞寄稿記事(1)」『へるん』36号、1999年6月、122-125; 銭本健二「ラフカディオ・ハーン単行本未収録の新聞寄稿記事(2)」『へるん』37号、2000年6月、126-127。

頃に行われた執筆者の判断であるが、後者は先行書誌に含まれている記事との関連で特定していった研究のためである。

ハーンの新シナティ時代における状況、および当時のシンシナティの社会的背景の解説も加えながら、ハーン執筆記事の原文と日本語訳を掲載しているのが、⑭キャメロン・マクワーター、オウエン・フィンセン共編、高橋経訳『「怪談」以前の怪談—シンシナティ・インクワイアラー紙：1872-1875年』（2004）²⁰である。本著によって、ハーンの記事の特徴がより深く理解できるだろう。

そして前述の田中氏は、精力的にハーンの新シナティ時代の史実の掘り起しを行い、その過程において、⑮田中欣二「ハーンの記事と鑑定されたシンシナティの新聞記事（追加）」（2006）を執筆し、そこには、⑤パーキンス、⑩フロストとヒューズの書誌、そして新たに発見されたヒューズと檜山の追加記事情報を再整理し、重複分とそうでないものを分類して、いくつかの記事数が現段階で見つけられているのか、図表で示している。それが図表 1 である（筆者による体裁上の加筆修正が施されている）²¹。⑯田中欣二「シンシナティ時代のラフカディオ・ハーン」（2009）²²にも、同様の寄稿記事数の表が掲載されている。この追加記事『インクワイアラー』（Yes 11 点、P14 点、の合計 25 点）と『コマーシャル』（Yes 6 点、P 12 点の合計 18 点）のリストの、4、16、21、24、25、28、30、32、34、36、37、38 番の合計 12 点の記事が、ヘルン文庫所蔵の本資料に含まれている（図表 2-1,2-2 を参照）。これらの資料は、檜山氏からのリストによると、パーキンスの書誌には掲載がない、新たな追加分の記事である。ヘルン文庫所蔵の残りの 8 点は、パーキンスとフロストの書誌に記載の記事である（本稿巻末の本資料リストを参照）。

そして同様に未刊行資料を使用した最新の研究としては、⑰ロジャー・S・ウィリアムソン『シンシナティ時代のラフカディオ・ハーン—異色ジャーナリストの誕生 その世界観をさぐる』（2012）がある。ウィリアムソンは銭本健二編『小泉八雲コレクション国際総合目録』（1991）の編集作業を銭本教授の元で手伝う過程で、未刊行記事を整理する作業に着手し、それらの記事を使用してハーンの世界観や価値観がどのように形成され、それが文章にどう表現されているかを明らかにした。付録に 6 点の未刊行記事の複写が掲載されている²³。それらの記事はすでにヒューズの書誌『ピリオド・オブ・ザ・グルーサム』（1990）に記載されているものである。そして、ヘルン文庫所蔵の本資料とは重複しないものである。

以上の、ヒューズ、檜山、田中、銭本、ウィリアムソンらの一連の研究が、ハーンの新シナティ時代の未刊行資料、およびパーキンス、フロストの書誌にはなかった新たな追加記事を探った研究であり、ヘルン文庫に所蔵されている本資料は、この研究の流れにおいて寄贈されたものである。今後、追加記事のより詳細な分析や、ハーンの記事の真偽を特定する場合に、本資料は必ず調査対象として挙げられるもので

²⁰ 註 7 を参照。

²¹ 註 3 を参照。

²² 田中、「シンシナティ時代のラフカディオ・ハーン」、165。

²³ ロジャー・S・ウィリアムソン著、恒松正雄訳『シンシナティ時代のラフカディオ・ハーン—異色ジャーナリストの誕生 その世界観をさぐる』（八雲会、2012）；銭本健二編『小泉八雲コレクション国際総合目録』（八雲会、1991）。

ある。その意味でも、本資料は今後の研究において、十分な価値を有すると言えよう。

シンシナティで出版されたハーンの寄稿記事数 1872-1878				
	Perkins	Frost/Hughes	合計	檜山/ Hughes
	内訳	内訳	内訳	追加
	独自 45		P 独自 45	+ Yes 11, + P14
『インクワイアラー』	共通 90	共通 90	P,F/H 共通 90	
1872-1875		独自 159	F/H 独自 159	
	合計 135	249	294	
	独自 97		P 独自 97	+ Yes 6, + P12
『コマーシャル』	共通 100	共通 100	P,F/H 共通 100	
1872-1875		独自 46	F/H 独自 46	
	合計 197	146	243	

TOTAL: 537 + Yes 17, P26

【図表 1】 田中欣二「ハーンの寄稿と鑑定されたシンシナティの新聞記事（追加）」『へるん』第 43 巻、2006 年、103 頁（筆者による体裁上の加筆修正あり）。

The Cincinnati Enquirer

Headline.	Date(Page: Column)	Y:Yes, P:Possible
1. Cholera on the Roadside.	1873-07-07(5:2)	Y
2. Suicide.	1874-01-17(8:3)	P
3. Thrown Out.	1874-01-19(8:1-2)	Y
④. A Street Stabbing.	1874-01-23(8:1-3)	Y
5. Pickett of N.14 Rat Row.	1874-01-28(8:3)	P
6. The Theaters.	1874-01-28(8:3)	P
7. A Double Crime.	1874-02-19(8:1-2)	Y
8. Suicide Through Want.	1874-03-13(8:3)	P
9. Fell Down Stairs.	1874-03-25(4:6)	Y
10. A Deadly Dray-Pen.	1874-03-27(4:5)	P
11. The New Opera.	1874-03-27(4:6)	P

12. Ax and Musket.	1874-03-30(8:1)		P
13. The Knife.	1874-04-10(8:3)	Y	
14. Deserted.	1874-04-13(8:1)		P
15. Cutting Affray.	1874-04-13(8:1-2)		P
⑩. Bloody Hollow.	1874-04-14(4:4)		P
17. Horace Greeley.	1874-04-27(8:3)	Y	
18. Under the Ruins.	1874-05-20(1:6)		P
19. Dayton's Spook	1875-03-15(8:1)	Y	
20. The Tan-Yard Murderers.	1875-03-23(4:3)	Y	
⑪. La Sonnambula.	1875-03-29(8:3)	Y	
22. Fratricide.	1875-05-17(8:3)	Y	
23. The Knife.	1875-05-18(4:5)		P
⑫. The Skull-Crusher.	1875-05-26(8:3)		P
⑬. Suicide.	1875-05-26(8:3)		P
TOTAL:		11Y,	14P

【図表 2 - 1】

The Cincinnati Commercial

Headline.	Date(Page: Column)	Y:Yes,	P:Possible
26. Witchcraft.	1875-08-14(8:1)	Y	
27. Fratricide.	1875-08-20(1-2)	Y	
⑭. Outrage on a Colored Wedding Party.	1875-09-03(8:1)		P
29. Shooting Affray in Bucktown.	1875-10-11(8:1)		P
⑮. Murder This Morning.	1875-10-27(8:1)	Y	
31. Recovery of Stolen Money.	1875-11-04(8:1)		P
⑯. Murder in a Gambling-House.	1875-11-11(8:1)		P
33. A Waif on the Sea of Life.	1875-11-19(8:1)		P
⑰. Lenhoff, or the Farce of the Bamboozled Husband.	1875-12-09(8:1)	Y	
35. Fatally Scalded.	1875-12-11(8:1)		P
⑱. Photographing Ye Spook.	1875-12-27(4:2-3)	Y	
⑲. Suicide—A Man Cuts His Throat Because His Wife's Grave Had Been Violated.	1875-12-30(4:3)		P
⑳. Floral Exposition.	1876-09-07(8:3)		P
39. Menagerie Sensation.	1876-09-20(8:1)		P

40. Death by Violence.	1876-12-27(8:1)	Y
41. Alleged Infanticide.	1876-12-28(8:1)	P
42. Carved with Shoemaker's Knife.	1877-01-02(8:1)	P
43. Wood's Theater.	1877-03-14(8:1)	P
TOTAL:		6Y, 12P

[図表 2-2]

※図表 2-1, 2-2 は田中、「ハーンの寄稿と鑑定されたシンシナティの新聞記事（追加）」、102 頁より転載。ヘルン文庫所蔵の本資料には、筆者が番号に○を付した。43 番の“Wood's Theater”は同タイトルの資料がヘルン文庫に所蔵されているが、掲載日が異なっているため、同一の記事かどうかは定かでない。

4. おわりに

本資料の詳細な内容、文体や英語表現の特徴などの分析は稿を改めたいが、これらの記事からは、先行研究でも指摘されてきたように、やはり人種問題への関心、辺境の人々や労働者へのまなざしなどが窺える。生々しい殺傷事件や自殺、事故などを報じながら、主にアフリカ系アメリカ人やドイツ系移民の市井の人々、労働者の暮らしを描いている点特徴的である。また本資料は、記事の切り抜きではなく、一日分の新聞がそのまま保存されており、その点でも非常に貴重である。ハーンが執筆したと思われる記事が掲載された同じ日に、どのような他のニュースがあったのか、また同紙面に掲載されている広告などからは当時、商品として流通していたものが何かなどを知ることができ、社会的背景の理解に役立つであろう。以下に本資料の掲載年月、掲載頁と掲載欄、ヒューズ教授の鑑定結果、内容要約を表にしてまとめておく。

水野 真理子

富山大学医学部（教養：英語）

Cincinnati Enquirer

Date	Page/Column/Evaluation	Headline	Summary
1874-Jan-02	P4/C2-3/p.214*	Mistress Woodhull's Misfortunes	女性司祭 Woodhull 女史が Y.M.C.A. の組織に対して批判を繰り広げている。女史は変革者、Y.M.C.A は保守主義の宗教団体。ミシガン州の変革を女史は叫び演説も行うが、それは嘲笑する非難者たちによって台無しにされている。
1874-Jan-10	P4/C2-3/p.238**	A Mild and Just Government (Egypt)	Pall Mall Gazette の記者がエジプトでの強制労働のシステムについて興味深い考察をしている。エジプトの農夫たちが食料や道具など自分持ちで、村落から働きに来る。村落ごとのグループで働かされ、支配・被支配の上下関係が周到に作られている。農夫たちは労働に加え税金も支払わされている。
1874-Jan-15	P2/C3-4/p.238**	That "Nun" Miss Edith O' Huiligan in the Show Business	プロテスタントに改宗した修道女の Edith O'Gorman が聴衆に向けてカトリック批判を含めた説教を行っている。聴衆は激高し雪を投げつける者もいる。命の危険にさらされることもしばしばあるが彼女は神が必ず守ってくれると信じ説教を続けている。
1874-Jan-23	P8/C1/Y	Street Stabbing	エルム街近くの3番通りで3人の男性がかかわった刺傷事件が起こった。薬屋の Koch が鋳型製作者の Berger に借金を返すよう迫った。二人の喧嘩の仲裁に入った Miller が Koch と乱闘になり Koch のナイフで刺される。その後運悪く Miller は死亡する。事件の詳細を Koch, Berger の供述も含めて記述。
1874-Feb-14	P5/C1-2/p.215*	The Century's Crime	Heyl House という宿で行われた墮胎について報告。インディアナ州からきた医師が若く美しい 18 か 19 歳の女性に墮胎手術をした。しかし、当人たちは女性が旅の疲れで流産したため手術したと供述。けれども墮胎を計画していたという証拠の手紙も発見された。

1874-Apr-14	P4/C4/P	Bloody Hollow	30 年ほど前に殺人犯 Hoover が絞首刑にされた場所通称、Bloody Hollow の近くの民家で、その名が示す通りの凶悪な犯罪が起こった。中年の O'Braian 夫妻が 4 人の黒人の男たちに金銭を奪われ、妻は激しく東部を殴打されたためほとんど回復の見込みなし。4 人は逮捕されたが周到にアリバイを作っていたため決定的証拠に欠けすぐに釈放されてしまった。
1875-Mar-29	P8/C3/Y	La Sonnambula, A Snoozer Who Makes His Bed on the Pavement	真夜中 2 時半すぎのこと、ある疲れ果てた労働者が通りで眠りについていくその様子を描写。
1875-May-26	P8/C3/P	Skull Crusher	明朝 4 時半すぎ、『コマージュナル』紙の事務所の一階でドイツ人労働者の Meyer が Press 機に挟まってあごをくだかれる事故に遭った。幸い命に別案なく、回復の見込みあり。
1875-May-26	P8/C3/P	Suicide	夜 7 時、Collins, Hall の二人の労働者がレイスストリートの下方にある川に女性が飛び込んだのを見て助けようとしたができなかった。
1875-Sep-03	P8/C1/P	Outrage on a Colored Wedding Party	黒人の若い夫婦の結婚パーティーを白人のならず者が攻撃し、れんがの破片で車を破壊するなどした。

Cincinnati Commercial

1875-Oct-27	P8/C1/Y	Murder This Morning	夜中 1 時前、Henry C. Johnson という男が銃で頭部を撃たれて殺害された。酒を飲んで酔っており James Douglas 夫妻の妻に侮辱的な言動を行いその後撃たれたようである。Douglas のほか 3 人の夜警が逮捕されたが、誰が犯人かはまだわかっていない。
1875-Nov-11	P8/C1/P	Murder in a Gambling House	午前 4 時 20 分過ぎ、レイスストリートの賭博場で James H. Cole が若い黒人の従業員 Duncan に、殺害された。酔っていた Cole を部屋から連れ出すの手伝った Duncan は Cole に罵言を浴びせられこぜりあいになり、ナイフを出した Cole から身を守るために、馬車の車輪のスポークで Cole を殴った。殺意はなかったとのことである。
1875-Dec-09	P8/C1/P	Lenhoff. Or the Farce of the Bamboozled Husband	12 時真夜中、Lenhoff 家に不法侵入者がいるとの通報がなされる。Lenhoff の妻のベッドの下に裸の男がいるとのこと。警官が現場へ急行したが男を見つけたことはできなかった。その後、再び眠りについた Lenhoff の妻の部屋から男が這い出てくるのを夫が発見し、殴打して捕える。妻と男の情事を不法侵入者の事件として、夫がばぐらされた茶番について滑稽に報道。
1875-Dec-27	P4/C2/Y	Photographing Ye Spook	幽霊を呼び出す能力があるという Hartman 氏の幽霊召喚の試みについて報道。
1875-Dec-30	P4/C3/P	Suicide	正午頃ハミルトンロード5で、ドイツ人馬具職人の Charles Hemerle、43 歳が自宅で喉を切り自殺した。3 か月前に死去した妻の遺体は、葬式が済んだ夜に墓地から墓泥棒によって奪われた。遺体は取り戻されたがそのことが心労となり自殺したようだ。4 人の子供が残された。

1876-Sep-07	P8/C3/P	The Floral Exposition	雨で中止となった花卉展示会について、また今後行われる展示会についての告知。
1876-Sep-13	P8/C1/p.242**	Concerning the Wild Indians from Arizona	ユニークなエキシビジョンが昨夕、グランド・オペラ・ハウスで行われた。20人のアパッチ族が出演していた。インディアンたちの慣習などに馴染みのない観客にとっては、満足いくものではなかったかもしれないが、間違いなく優れたエンターテインメントだった。本物のインディアンによる野性的な踊り、先住民の生活の生の表現などが見られ、真実味ある内容だった。
1876-Dec-06	P4/C4/p.242**	Wood's Theatre: John Raymond in Gilded Age	喜劇役者 John Raymond が Sellers 大佐の役を演じたその演劇を称賛。マーク・トゥエインの小説におけるキャラクター作りを超えた Raymond の役作りを褒めている。そのほか、Wood Theater で行われる予定の演劇を告知。
1877-Jan-04	P4/C4/p.242**	A Bucketfull of Blood in a Bucktown	夕方遅くに巡回を終えた警官 Martin が酒場で呼び止められた。若い黒人男性が顔から頭にかけてのひどい刺し傷によって瀕死の状態であった。すぐに医者と呼ばれ、その後救急の荷馬車も呼ばれ病院に運ばれた。被害者の供述により容疑者は恋人のアリスで、彼女は逮捕され、男が殴ったので自己防衛のために刺したと話している。しかし、なぜ若く逞しい肉体の男が、女性からの攻撃をかわせなかったのか謎である。
1877-Apr-23	P8/C3-4/p.243**	Shakespeare	今日は伝統的に行われているシエイクスピアの生誕記念日である。しかし実際は彼についての出自などの情報は、彼の次に偉大な詩人として知られるジョン・ミルトンほど明白になっていない。アメリカ人はドイツ人についてシエイクスピア作品についての高い理解を示している。

1877-Aug-29	P4/C5/p.244**	Highland House, Thomas Orchestra Concerts	昨晩の Theodore Thomas のオーケストラは素晴らしかった。それを称賛するた めの言葉が見つからないほどである。バツハ、サンサンス、ベートーベン、シ ューマン、ワーグナーなど優れた古典音楽で、開催場所のハイランド・ハウス の管理運営も功を奏し、素晴らしいパフォーマンズであった。今晚の演奏の予 定も掲載。
-------------	---------------	---	--

(補足)

※Evaluation の Y, P は以下を意味する。Y: Yes, Hearn wrote it, P: Hearn possibly wrote it.

※ページ数については、* : 檀山氏からのリストには記載がなかったが、Lafcadio Hearn, *Lafcadio Hearn: Selected Writings 1872-1877*, ed. WM. S. Johnson (Indianapolis: Woodruff Publications, 1979) の巻末 “The Early Writings of Lafcadio Hearn: A Bibliography. Compiled by O.W. Frost” (December 10, 1953) に記載されているページ数。** : P.D. and Ione Perkins, *Lafcadio Hearn: A Bibliography of His Writings* (Tokyo: Hokuseido Press, 1934)の掲載ページである。